

岡山県高等学校教育研究協議会

第1回会議 説明資料

開催日: 令和7年8月26日(火)

場 所: 岡山県庁3階大会議室

高等学校教育の現状

●はじめに

高等学校の実態

- ・中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学
- ・多様な入学動機や進路希望、学習経験など様々な背景を持つ生徒が在籍

高等学校を取り巻く状況

- ・産業構造や社会システムの急激な変化
- ・選挙権年齢や成年年齢の18歳への引下げ
- ・義務教育段階における不登校経験を有する生徒の増大
- ・15歳人口の減少
- ・少子化により、高等学校の維持が困難となる地域の増加

●高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ(令和7年2月)概要

I. これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態が地域・学校により非常に多様な状況にあるため、質の確保・向上に向けて、「多様性への対応」と「共通性の確保」を併せて進める必要

■ 多様性への対応

- 地理的状況や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現

■ 共通性の確保

- 「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」の育成
- 「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」の育成
- 「自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」の育成
- 義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、「知・徳・体のバランスのとれた土台」の形成

に

取り組む
ことが
特に重要

II. 各論点に対する現状・課題認識と具体的方策

主要手段の
凡例 ○: 通知等 □: 予算事業 ◇: 調査 ☆: その他取組

1 少子化が加速する地域における 高等学校教育の在り方

- 少子化の影響により多くの地域で統廃合が進行。今後も15歳人口の減少は一層加速。小規模校の教育条件の改善が必要。
- 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化が必要。

小規模校の教育条件の改善に向けて

- 教科・科目充実型の遠隔授業、全日制・定時制課程における通信教育の活用、学校間連携等の推進による学びの機会の充実に係る実証研究の実施
- 配信センターの体制・環境整備、学校間連携等の促進
- ◇ スクール・ミッション、スクール・ポリシー等を踏まえた学校教育活動の実施・改善、学校の特色化・魅力化
- ☆ 都道府県と市町村の連携・協力による学校運営
- 地域や学校を越えた生徒同士の学びのネットワークの構築
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入等による学校と地域社会の連携・協働の推進
- 学校における働き方改革の推進、コーディネーター等の配置支援

2 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

- 不登校児童生徒数が義務教育段階を中心に増大。高校段階では通信制の生徒数が近年急増。
- 全日制・定時制・通信制いずれの課程にあっても、柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要。

生徒の多様な学習ニーズに応える 柔軟で質の高い学びの実現に向けて

- 不登校生徒の学習機会の確保
 - 自宅等からの同時双方向型の遠隔授業や通信教育の活用に関する実証研究、モデル事例の創出
 - ☆ 履修・修得の柔軟な認定の促進
 - 学びの多様な学校や校内教育支援センターの設置促進
 - 不登校経験が不利益に扱われない高校入学選抜等
- 定時制・通信制課程における優良事例の創出等
- ◇ 広域通信制の設置認可等に関する状況の把握等
- 通信制課程に係る情報公表や制度等に係る情報発信
- ◇ 不登校生徒に対する継続的な実態調査
- SC・SSWの配置充実、心理・福祉分野に強みや専門性を有する教師の育成等
- 公立通信制高校等の機能強化等
- 高校における特別支援教育の充実に向けた体制整備
- 外国につながる生徒の受入れに向けた体制整備

3 社会に開かれた教育課程、 探究・文理横断・実践的な学びの推進

- 高校生の3割が家や塾で学習を「しない」と回答。
- 授業の満足度・理解度は学年が上がるとともに低下。
- 多くの高校で文理のコース分けがなされ、特定の教科を十分に学習しない傾向。

全ての生徒の学びの充実にに向けて

- 普通科改革の促進、コーディネーターの配置支援を通じた探究・文理横断・実践的な学びの推進
- グローバル人材育成に資する拠点校の整備、留学をはじめ国際交流の促進、理数系教育の更なる充実
- 産業界等と専門高校の連携・協働の強化、専門高校を拠点とした地域人材の育成・地方創生の支援、専門高校の魅力の発信
- DXハイスクール事業の更なる推進
- ☆ 学習指導要領の理解や着実な実施、定着
- ☆ 学校における働き方改革の推進、教職員の配置を含む高校の指導体制の充実
- 教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コンテンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及
- ☆ 大学入学選抜を含む高大接続改革の推進
- ☆ 教育費の負担軽減

●高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ(令和7年2月)概要(抜粋①)

I. これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態が地域・学校により非常に多様な状況にあるため、質の確保・向上に向けて「多様性への対応」と「共通性の確保」を併せて進める必要

■多様性への対応

- 地理的状況や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現

■共通性の確保

- 「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」の育成
- 「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その間に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」の育成
- 「自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」の育成
- 義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、「知・徳・体のバランスのとれた土台」の形成

に

取り組む
ことが
特に重要

●高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ(令和7年2月)概要(抜粋②)

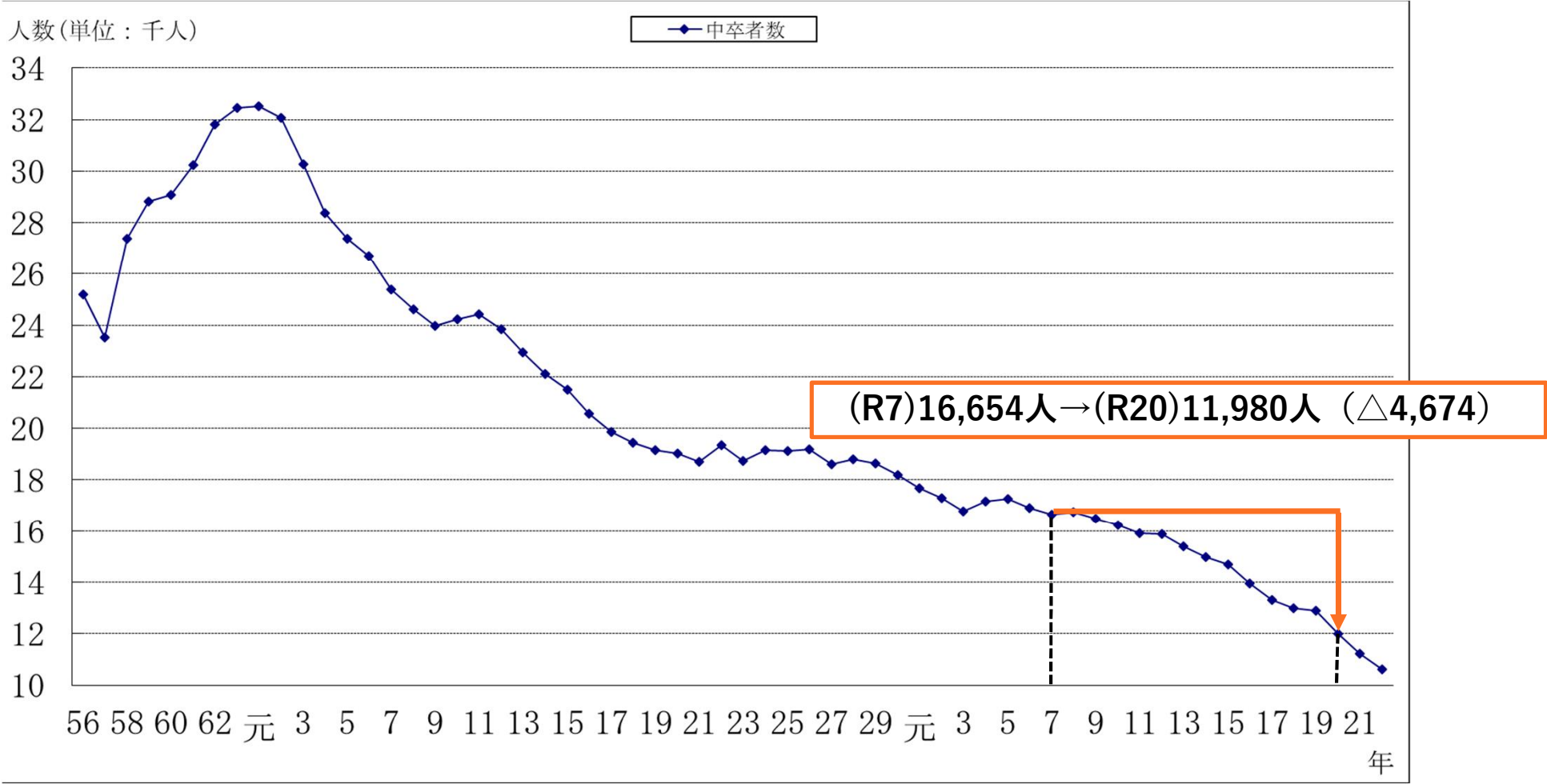
Ⅱ. 各論点に対する現状・課題認識と具体的方策			主な手段の 凡 例
1 少子化が加速する地域における 高等学校教育の在り方 ● 少子化の影響により多くの地域で統廃合が進行。 今後も15歳人口の減少は一層加速。<u>小規模校の 教育条件の改善が必要。</u> ● 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化が必要。 小規模校の教育条件の改善に向けて □ 教科・科目充実型の遠隔授業、全日制・定時制課程 における通信教育の活用、学校間連携等の推進に よる学びの機会の充実にに関する実証研究の実施 □ 配信センターの体制・環境整備、学校間連携等の促進 ◇ スクール・ミッション、スクール・ポリシー等を踏まえた学校 教育活動の実施・改善、学校の特色化・魅力化 ☆ 都道府県と市町村の連携・協力による学校運営 □ 地域や学校を越えた生徒同士の学びのネットワーク の構築 □ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導 入等による学校と地域社会の連携・協働の推進 □ 学校における働き方改革の推進、コーディネーター等 の配置支援	2 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方 ● 不登校児童生徒数が義務教育段階を中心に増大。 高校段階では通信制の生徒数が近年急増。 ● 全日制・定時制・通信制いずれの課程にあっても、 柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要。 生徒の多様な学習ニーズに応える 柔軟で質の高い学びの実現に向けて 不登校生徒の学習機会の確保 □ 自宅等からの同時双方向型の遠隔授業や通信教育の 活用に関する実証研究、モデル事例の創出 ☆ 履修・修得の柔軟な認定の促進 □ 学びの多様化学校や校内教育支援センターの設置促進 ○ 不登校経験が不利益に扱われない高校入学者選抜 等 □ 定時制・通信制課程における優良事例の創出等 ◇ 広域通信制の設置認可等に関する状況の把握等 □ 通信制課程に係る情報公表や制度等に係る情報発信 ◇ 不登校生徒に対する継続的な実態調査 □ SC・SSWの配置充実、心理・福祉分野に強みや専門 性を有する教師の育成等 □ 公立通信制高校等の機能強化等 □ 高校における特別支援教育の充実に向けた体制整備 □ 外国につながる生徒の受入れに向けた体制整備	3 社会に開かれた教育課程、 探究・文理横断・実践的な学びの推進 ● 高校生の3割が家や塾で学習を「しない」と回答。 ● 授業の満足度・理解度は学年が上がるとともに低下。 ● 多くの高校で文理のコース分けがなされ、特定の教科を 十分に学習しない傾向。 全ての生徒の学びの充実にに向けて □ 普通科改革の促進、コーディネーターの配置支援を 通じた探究・文理横断・実践的な学びの推進 □ グローバル人材育成に資する拠点校の整備、留学を はじめ国際交流の促進、理数系教育の更なる充実 □ 産業界等と専門高校の連携・協働の強化、専門高 校を拠点とした地域人材の育成・地方創生の支援、 専門高校の魅力の発信 □ DXハイスクール事業の更なる推進 ☆ 学習指導要領の理解や着実な実施、定着 ☆ 学校における働き方改革の推進、教職員の配置を含 む高校の指導体制の充実 □ 教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コン テンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及 ☆ 大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進 ☆ 教育費の負担軽減	○: 通知等 □: 予算事業 ◇: 調査 ☆: その他取組

① 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

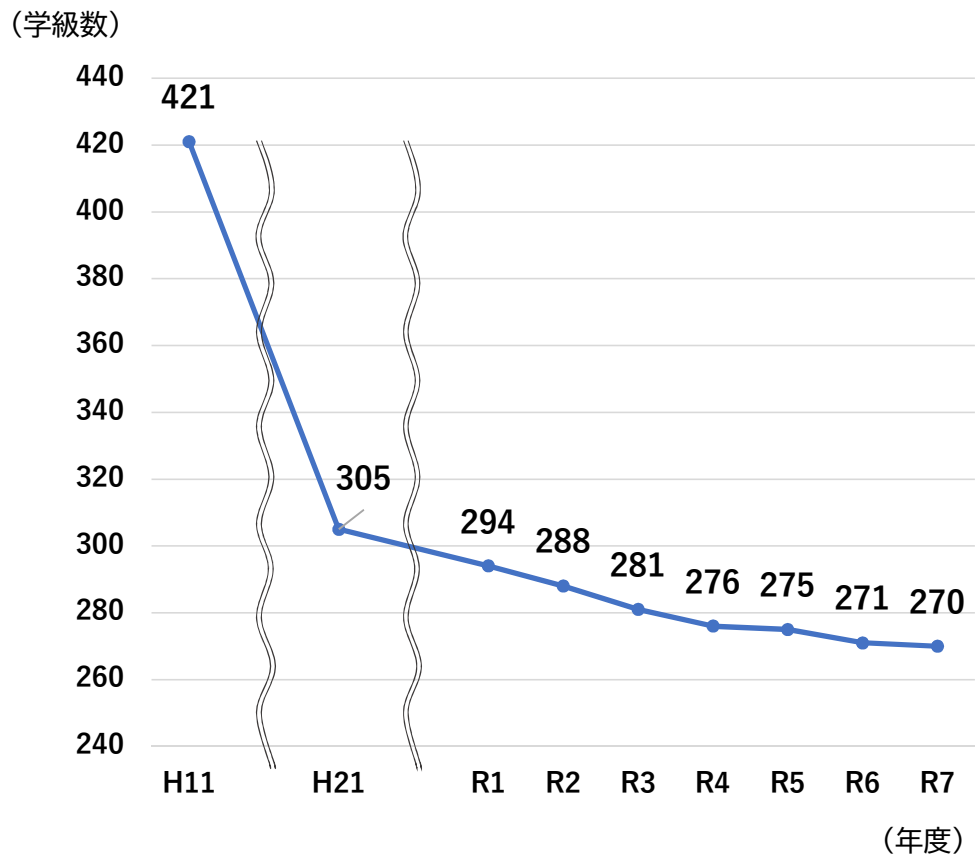
② 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

③ 社会に開かれた教育課程、探究・文理横断・実践的な学びの推進

①-1 県内の中学校卒業(見込)者数の推移



①-2 県立高校(全日制課程)における学級数の推移 ※中等教育学校含む



年度	学級数(計)	学校数(計)	1校あたりの平均学級数
H11	421	68	6.19
H21	305	54	5.65
R1	294	51	5.76
R7	270	51	5.29

△151学級

①-3 スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定・公表

文部科学省は、高等学校の特色化・魅力化を推進するため、令和3年3月に、各学校がスクール・ポリシーを策定・公表するよう、学校教育法施行規則の一部を改正するとともに、スクール・ポリシーを策定する前提として、各設置者に各学校のスクール・ミッションを再定義することを求めました。

県教委では、県内県立高校のスクール・ミッションを地元自治体との意見交換を通じ再定義し、各県立高校においては、毎年、スクール・ポリシーを見直し、HPなどで公表しています。

スクール・ミッション

各設置者が、各学校の存在意義や、期待される社会の役割、目指すべき学校像を明確化したもの

スクール・ポリシー

各学校の入口から出口までの教育活動の指針のこと

※各学校は、スクール・ミッションに基づき、次の3つの方針を策定・公表する

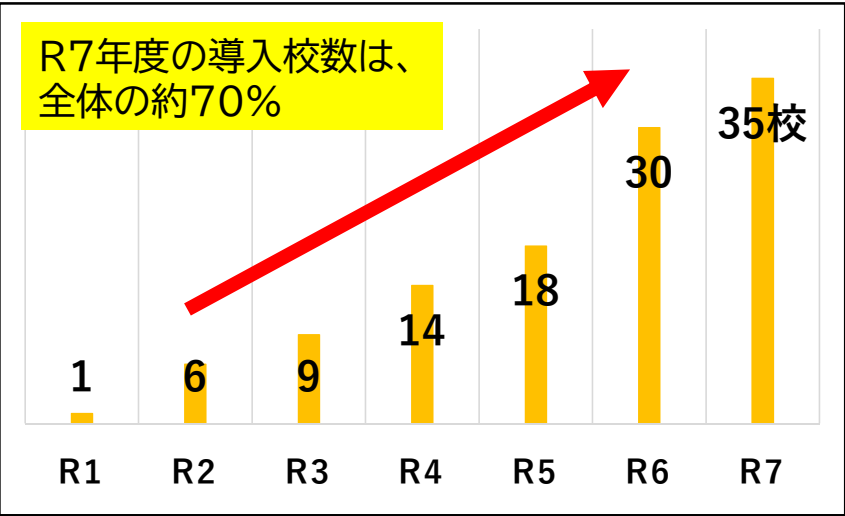
- ・「育成を目指す資質・能力に関する方針」
- ・「教育課程の編成及び実施に関する方針」
- ・「入学者の受入れに関する方針」

①-4 コミュニティ・スクールの導入による学校と地域社会の連携・協働の推進

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みです。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るために有効です。

本県県立学校のコミュニティ・スクールについては、「地域」をより柔軟に捉え、立地上の地域(エリア・コミュニティ)だけでなく、それぞれの学校の教育目標や内容に関わる地域(テーマ・コミュニティ)という視点の双方の側面を生かすこととしており、企業等の関係機関との連携も充実しています。

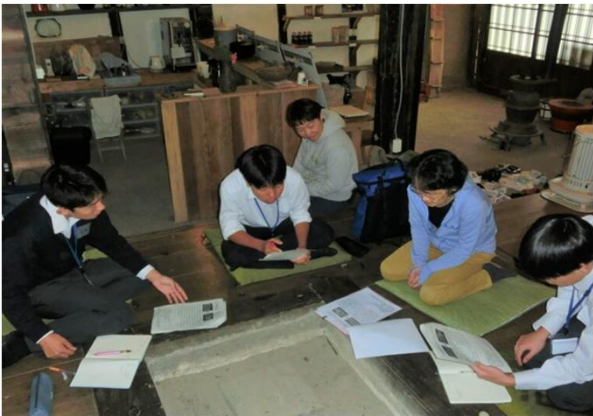
本県県立高校におけるコミュニティ・スクール導入状況



年度	学校名
R1	和気閑谷
R2	邑久、玉野、岡山御津、林野、勝間田
R3	備前緑陽、井原、津山商業
R4	瀬戸南、矢掛、鴨方、高梁城南、津山東
R5	倉敷鷺羽、笠岡、笠岡工業、笠岡商業
R6	瀬戸、岡山一宮、岡山工業、玉野光南、玉島、玉島商業、総社、高梁、新見、津山工業、勝山、真庭
R7	岡山城東、興陽、倉敷天城、倉敷中央、倉敷商業

①-5 高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業

コーディネーター(CN)は、高等学校の特色化・魅力化にあたり、学校と学校外の様々な関係機関との連携の中核となる専門人材です。県教委では、高校魅力化のために、高校と地域をつなぐCNの配置が効果的であることから、県立高校(指定校8校)にCNを配置し、各学校や各地域の特色を活かした教育活動を推進しています。



【CNによる生徒の実践的な学びの充実】



【R7年度高校×地域×行政の連携協働コーディネート勉強会(第1回)の様子】

①-6 地元自治体との協働:「やかげ学」における矢掛町役場との協働(矢掛高校)

矢掛町は、令和6年6月に、地域と学校が一体となって教育や地域振興を推進するために、矢掛高校との連携協力に関する包括協定を結びました。矢掛高校の教育活動を支援し、地域資源を活用した学習機会を提供することで、地域と学校が協力し合い、相互に発展していくことを目指しています。



【活動の様子】



【矢掛町と矢掛高校との連携協力に関する包括協定書調印式】

①-7 地元自治体との協働：高梁市高校生みらい共創課（高梁高校、高梁城南高校）

高梁市は、令和7年4月に高梁高校及び高梁城南高校の生徒が自治体の「職員」となってまちづくりに取り組む「高校生みらい共創課」を発足しました。この部署では、地域の課題解決や活性化をテーマに、高校生が市の職員と共に事業を企画、立案して実際に活動しています。



【活動の様子】



【「高校生みらい共創課」発足式】

①-8 地元自治体による支援:和気町による和気閑谷高校への支援

和気町は、和気閑谷高校の生徒と住民の交流などを目的に、令和7年3月に新しい施設(和気町地域学習交流センター)を竣工しました。町営の学生寮として、全国から入学する生徒の生活拠点機能も兼ねます。



【和気町地域学習交流センター】



【和気町地域学習交流センター落成式】



【Talk Folk Dance2025の様子】

①-9 県立高校の再編整備

(基準)

- ① 第1学年の生徒数が100人を下回る状況が、令和5(2023)年度以降2年続いた場合には、再編整備の対象とする。
 - ② 第1学年の生徒数が80人を下回る状況が、令和5(2023)年度以降2年続いた場合には、翌年度の生徒募集を停止する。
- ※ 生徒数については、各年度の5月1日時点での在籍生徒数とする。

・この基準の適用に当たっては、通学の利便性や地元自治体からの進学状況など、地域の状況に配慮する。

(基準の適用における配慮事項)

同一市町に県立高等学校が1校となっている場合は、現在の実施計画の期間中(令和10(2028)年度まで)は、当該校への再編整備基準の適用を保留することとする。

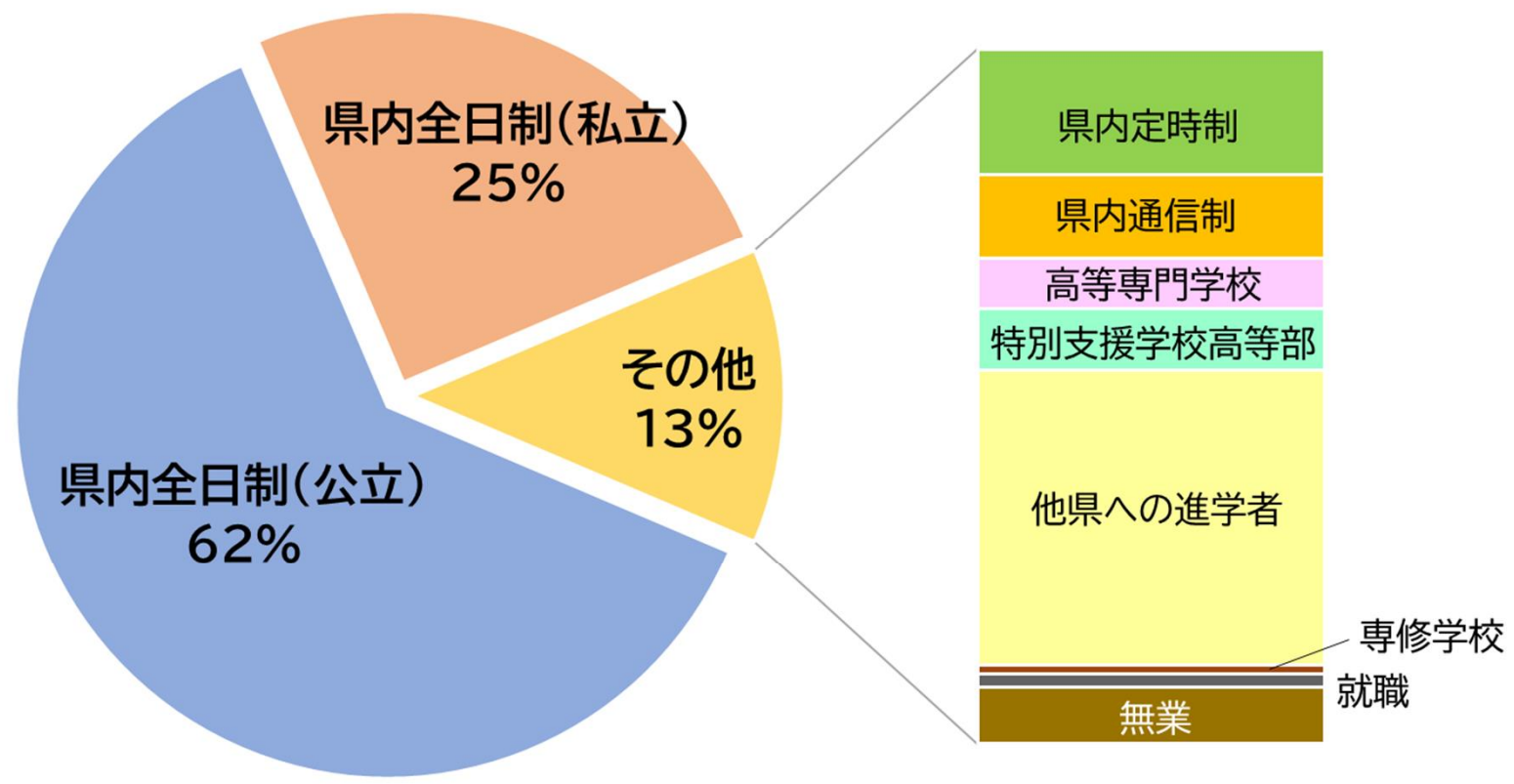
① 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

② 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

③ 社会に開かれた教育課程、探究・文理横断・実践的な学びの推進

②-1 中学校卒業後の進路状況(令和7年3月)

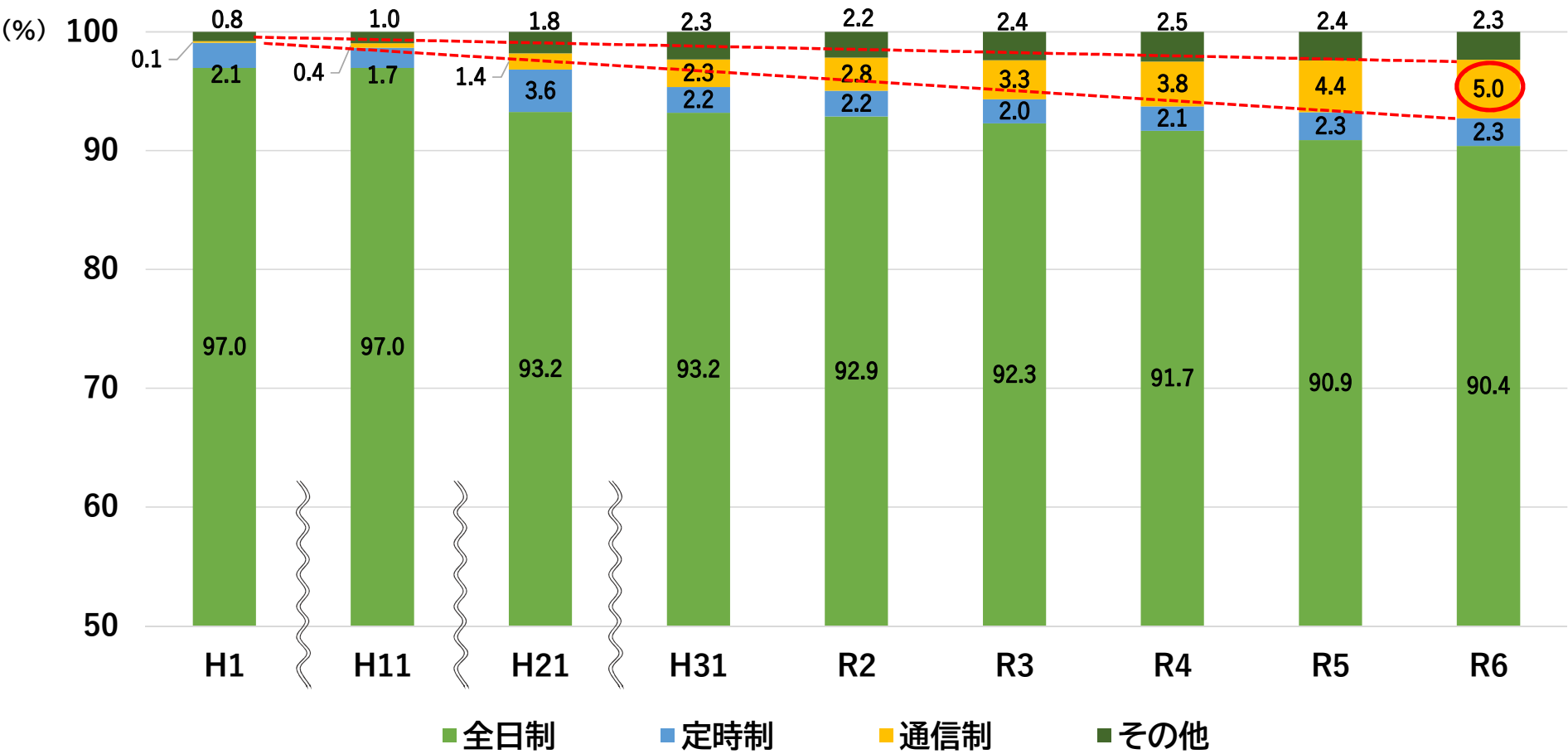
高等学校等進学率は98.7%(16,440人)



②-2 高等学校等進学者における課程別割合の推移(全日制・定時制・通信制)

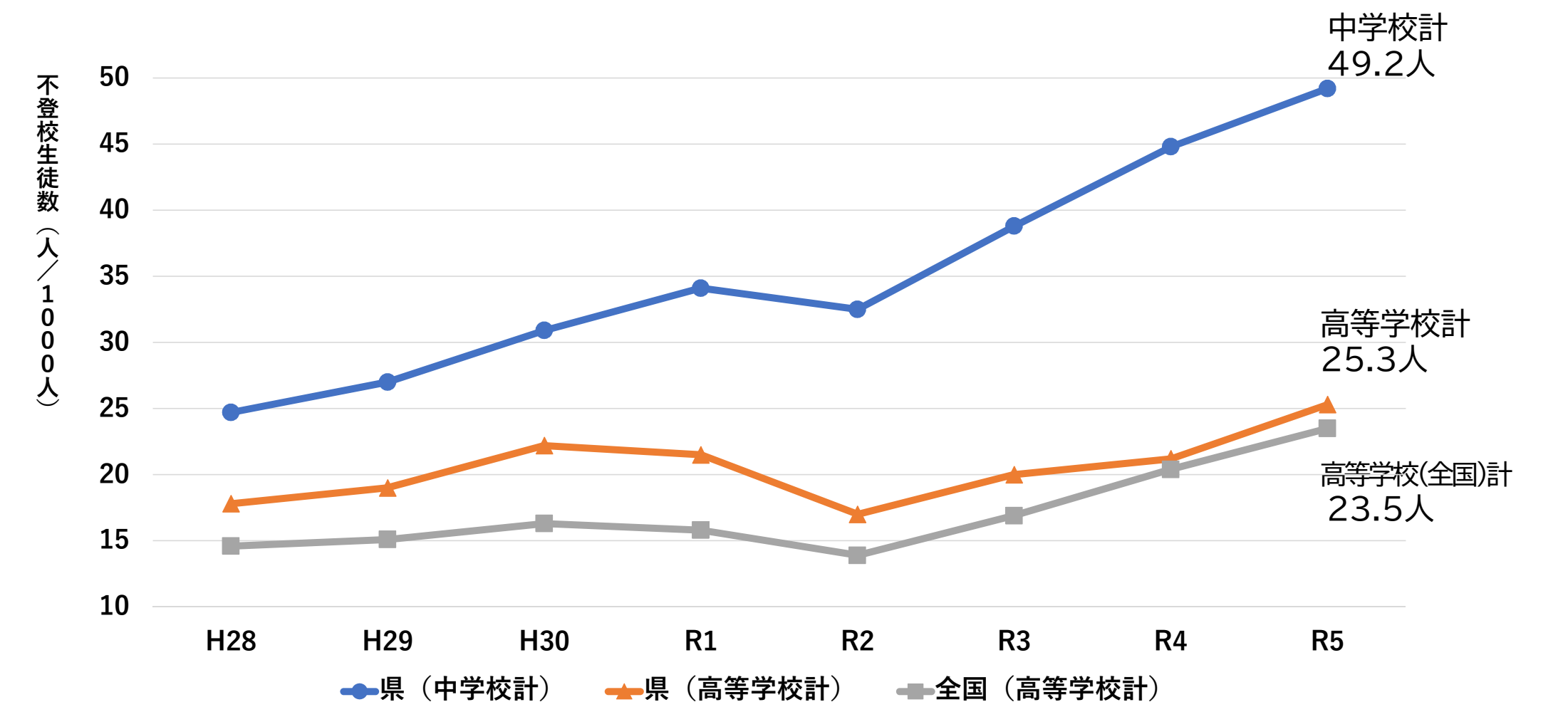
※その他:中等教育学校後期課程、高等専門学校、特別支援学校高等部

通信制に進学する生徒の割合が増加

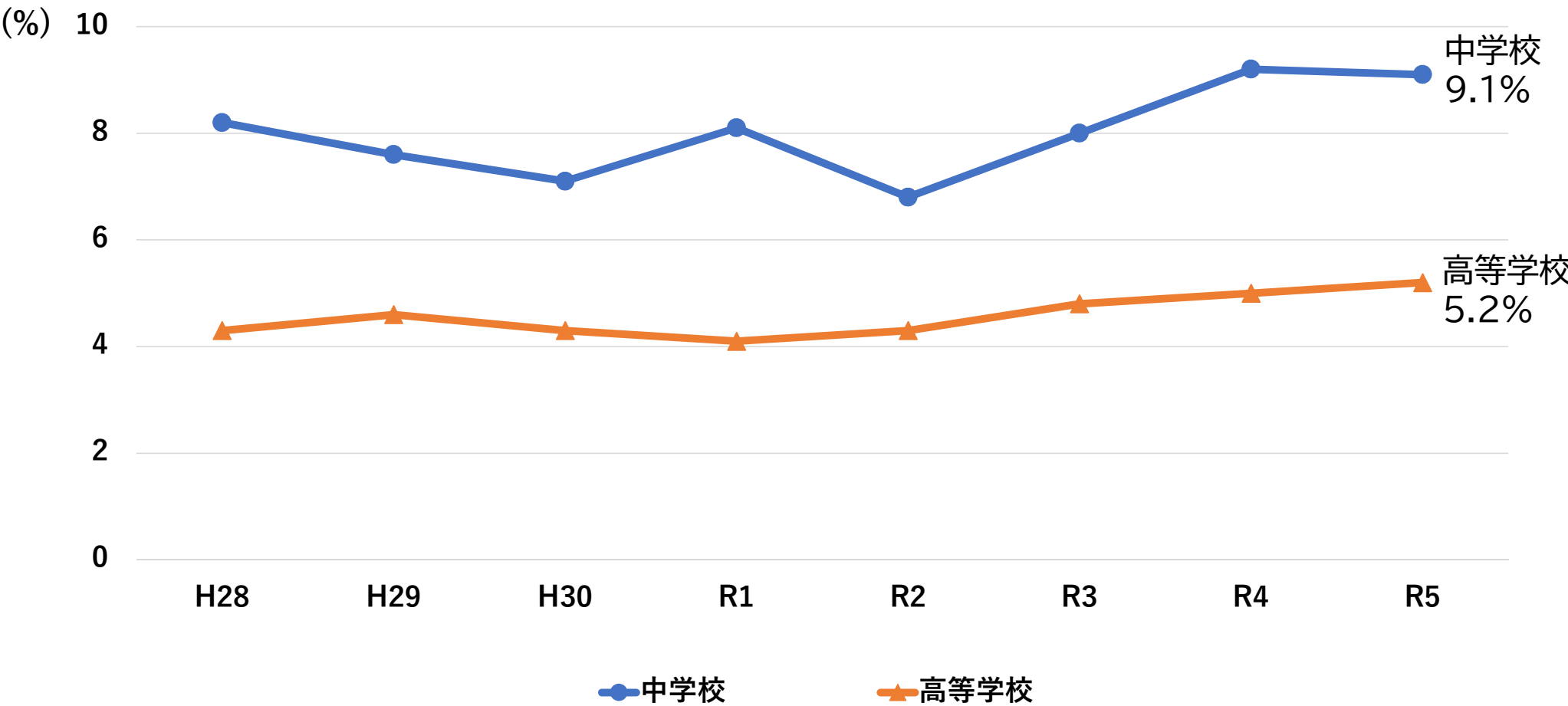


文部科学省「学校基本調査」を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

②-3 不登校生徒の状況:1000人当たりの不登校生徒数の推移(国公立)



②-4 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の推移(公立)



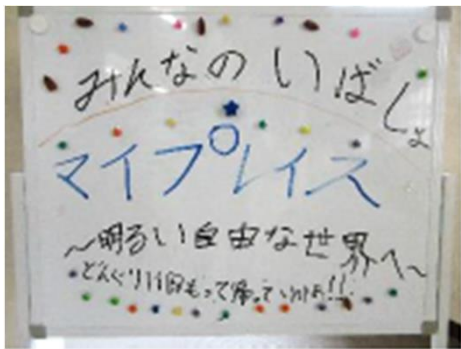
②-5 不登校生徒への対応(フレックス制の導入・My Placeの設置)

県教委では、令和7年度から、全日制高校への進学を目指している不登校傾向の中学生が全日制高校を卒業することを支援する仕組み(フレックス制)を導入し、岡山御津高校で展開しています。入学後に、フレックス制で学習を進める生徒は、岡山御津高校に在籍したまま、岡山操山高校通信制課程の一部の科目を履修し単位を修得(全通併修)していくようになります。

また、高校進学を目指しているが、様々な理由で登校できていない中学生のために、岡山御津高校・鴨方高校内に学習等をしながら落ち着いて生活できる「新たな居場所」として、教育支援センター「My Place」を設置しています。



【岡山御津高校のチラシ】



【My Placeでの活動の様子】

②-6 本県高等学校における特別支援教育

高等学校では、中学校との情報の引継ぎ、特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり、進路を見据えた指導・支援を行い、校内支援体制の充実を図っています。

高等支援学校等就労支援充実事業

・特別支援教育課に配置する就労支援コーディネーター(2名)が、公立高等学校(中等教育学校含む)からの要請に応じて、障害者枠での一般就労等を目指す生徒に係る就労の支援を実施



【令和6年度の支援実績】

- ・支援実施校数:14校
- ・総支援生徒数:25名

高等学校における「合理的配慮」ガイドブック等

- ・県立高等学校2校を研究指定し、合理的配慮の提供及び引継ぎに係る手続きを研究(R5～6年度)
- ・研究の成果をまとめ、特別支援教育課ホームページ※で公開し、研修等で周知
- ・各学校が設定する育てたい生徒像の具体として、なりたい自分を明確化できるよう、県立高等学校における個別の教育支援計画の参考様式を作成



※特別支援教育課HP

通級による指導パワーアップ事業

- ・平成30年度から高等学校において通級による指導(以下「通級」という。)が制度化され、本県では、令和7年度は、9校で実施しており、今後も拡充予定
- ・関係課・室が連携し、特別支援学校に在籍する専門性の高い教員を高等学校へ人事異動させ、その学校はもとより、周辺のニーズのある学校を巡回し、通級を実施できる仕組みを構築

②-7 スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)

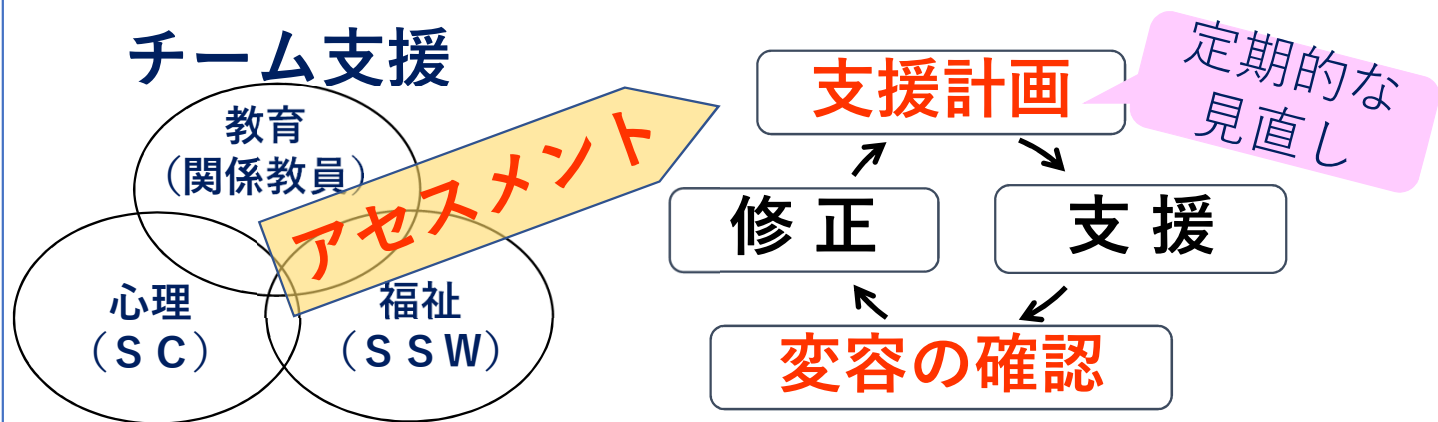
県教委では、全県立高等学校において、公認心理師等の心理の専門家による、生徒・保護者へのカウンセリング、教職員への助言・研修、心理教育等の実施を支援し、高等学校の教育相談力の向上を図るとともに、担当SSWが巡回し、関係機関等と連携しながら生徒の背景要因への支援を行い、問題行動等の解決を図っています。

- <SC、SSWの職務内容>
(令和4年2月9日付国通知抜粋)
- SCは、児童生徒・保護者・教職員に対するカウンセリングだけでなく、情報収集・見立て（アセスメント）や助言・援助（コンサルテーション）等を行うことが求められる。

○SSWは、児童生徒や保護者のニーズを把握し、支援を展開するとともに、学校や自治体を始めとする関係機関への働き掛けを行うことが求められる。

○SC、SSWは、教員や他の専門人材等と連携したチーム学校の一員として支援を行うことが求められる。

関係教員とSC・SSWとの協働イメージ



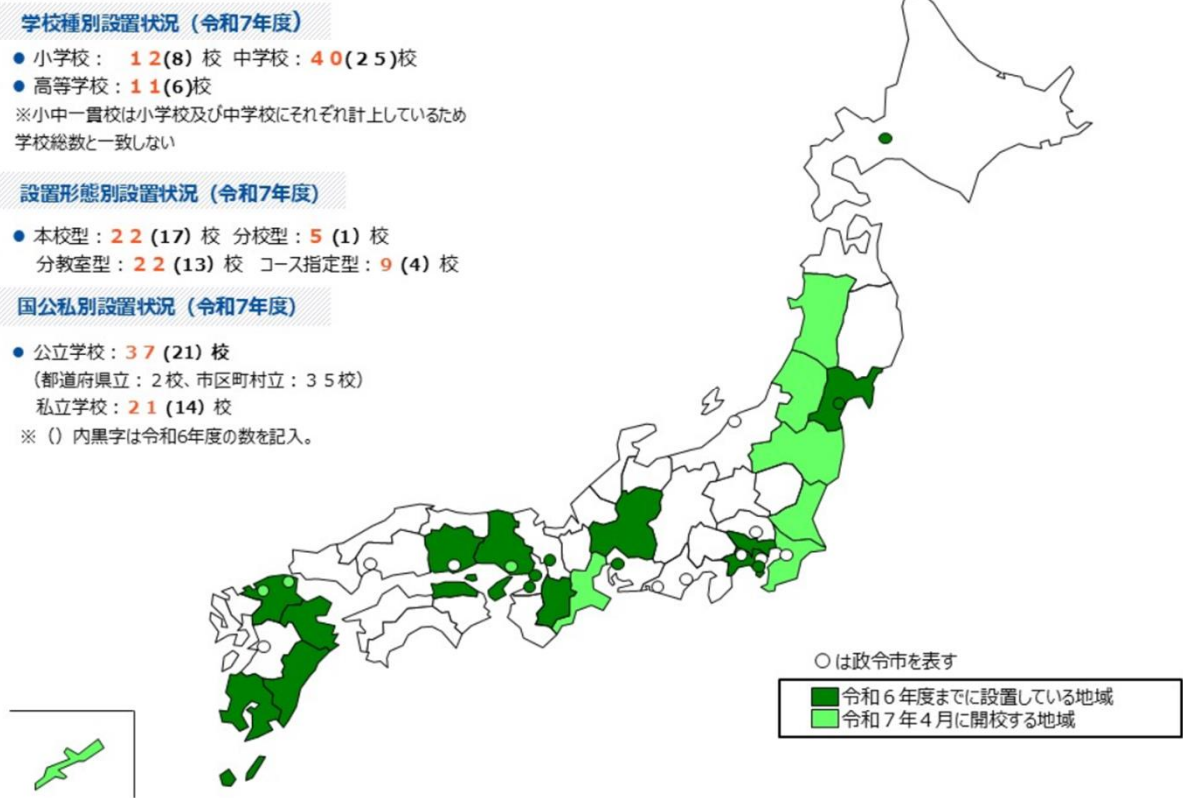
②-8 学びの多様化学校(いわゆる「不登校特例校」)

「学びの多様化学校」とは、学校に行きづらさを感じる子どもの実態に配慮した、特別の教育課程を編成して教育を実施する学校のことです。

岡山県の設置状況

- * 令和6年4月～
岡山県美作高等学校普通科
(Bloomコース)
- * 令和7年4月～
美作市立作東中学校分教室
学びの多様化学校樺(あらき)学園

全国の設置状況(R7) ※58校開校

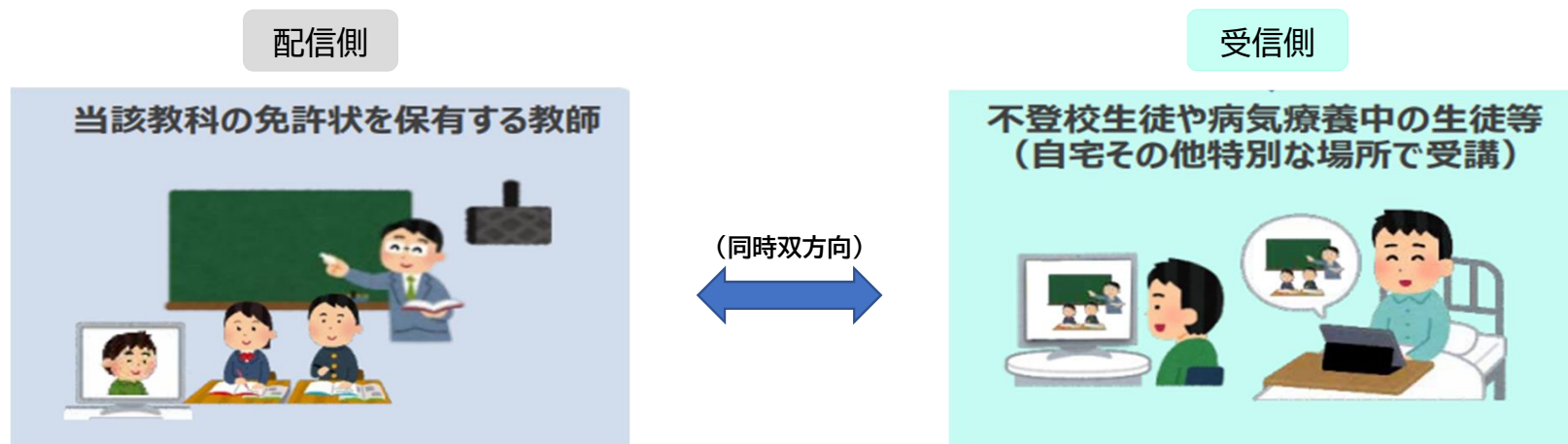


②-9 遠隔授業

平成27年4月から、高等学校の全日制・定時制課程における遠隔授業が正規の授業として制度化されました。これにより、高等学校段階において、先進的な内容の学校設定科目や相当免許状を有する教師が
少ない科目の開設、小規模校等における幅広い選択科目の開設等、生徒の多様な科目選択を可能と
すること等により、生徒の学習機会の充実を図ることが可能となりました。

また、制度化以降、段階的に遠隔授業実施の要件が緩和されたことで、病気療養中の生徒や不登校の
生徒に対して遠隔授業を実施する環境が整えられ、こうした生徒の学習機会の保障を図ることも可能
となりました。

【学校教育法施行規則第88条の3】



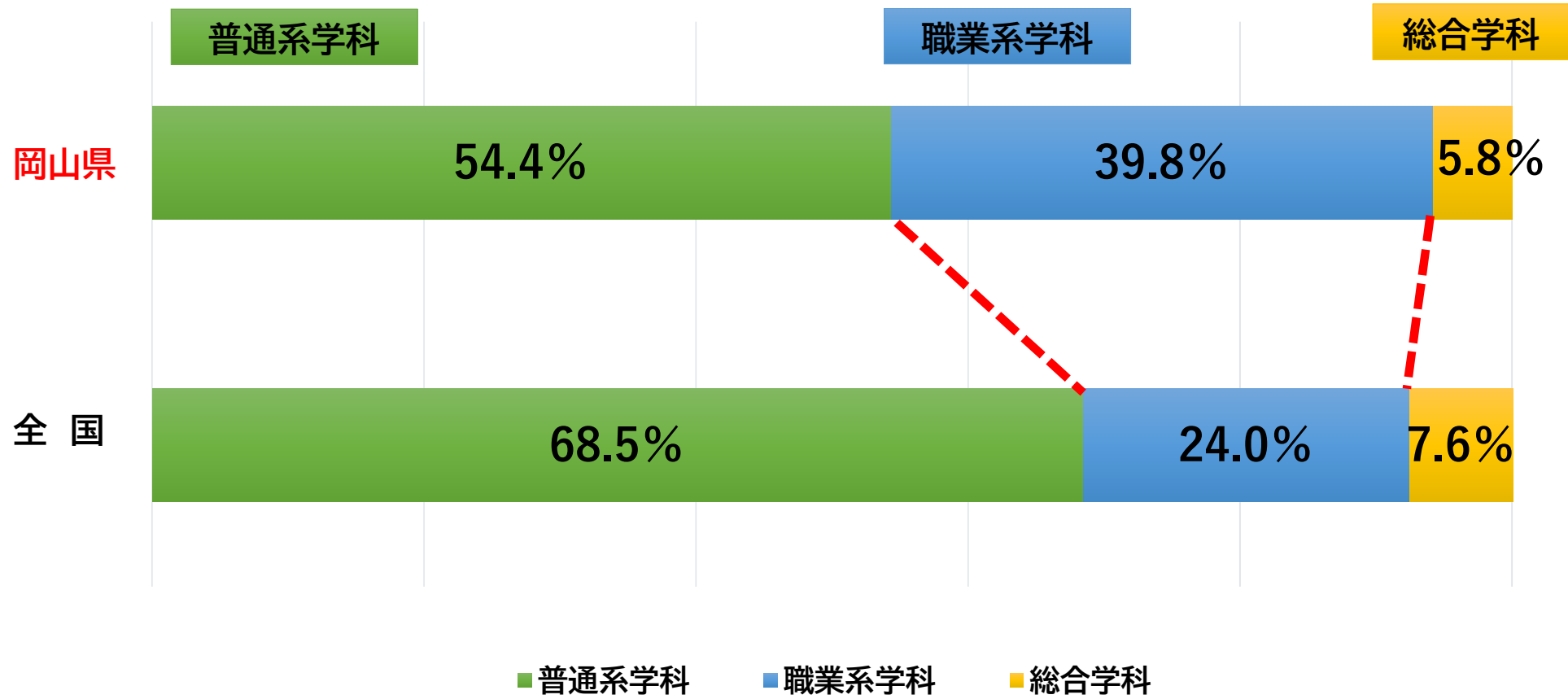
① 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

② 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

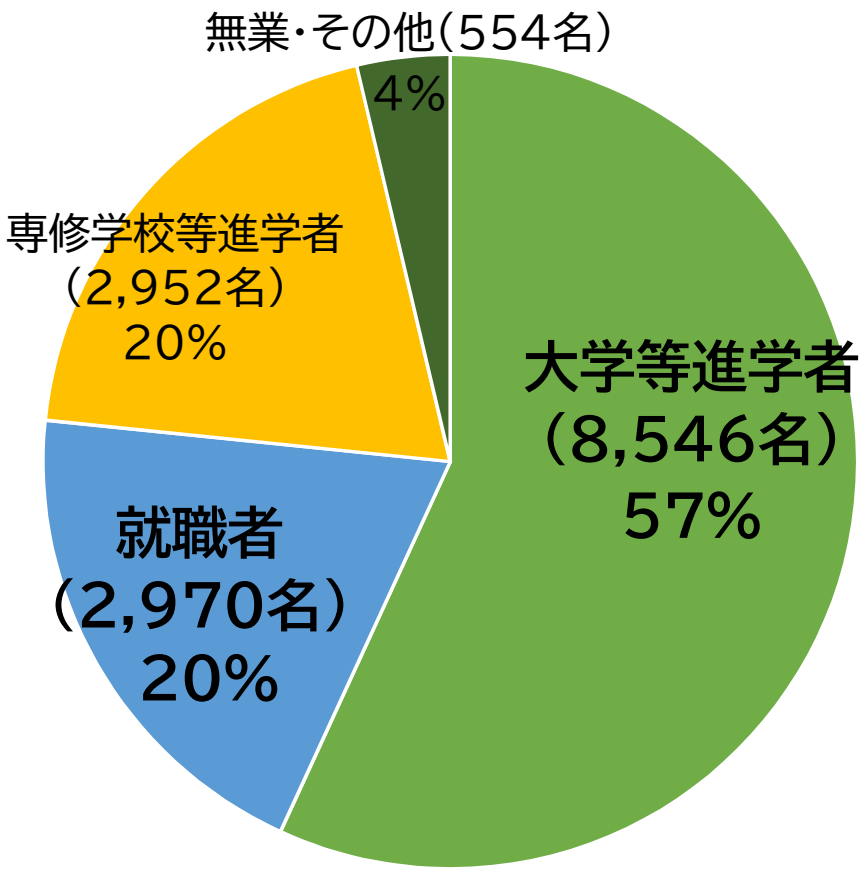
③ 社会に開かれた教育課程、探究・文理横断・実践的な学びの推進

③-1 学科別募集定員比率(令和6年度, 公立)

全国に比べて、職業系学科の割合が高い

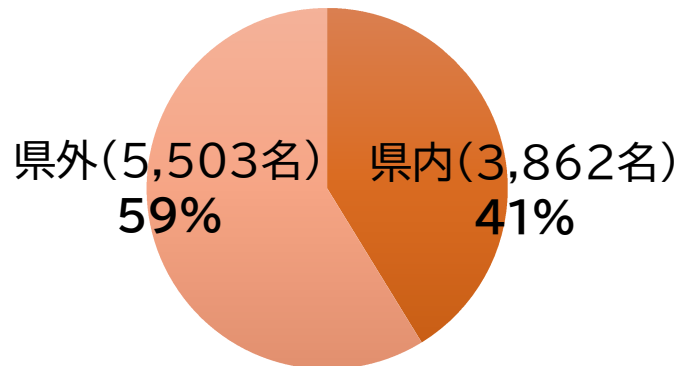


③-2 高等学校卒業者の進路状況(令和6年3月、公私立)

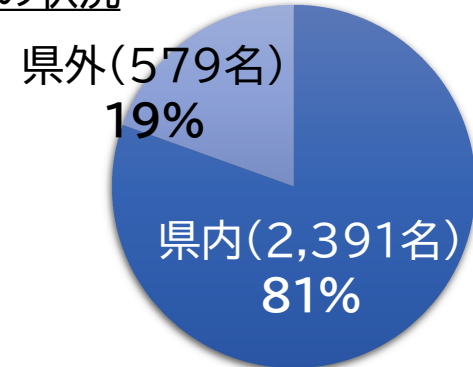


【参考】 県内外別割合(令和6年3月)

大学への進学状況(既卒者含む)



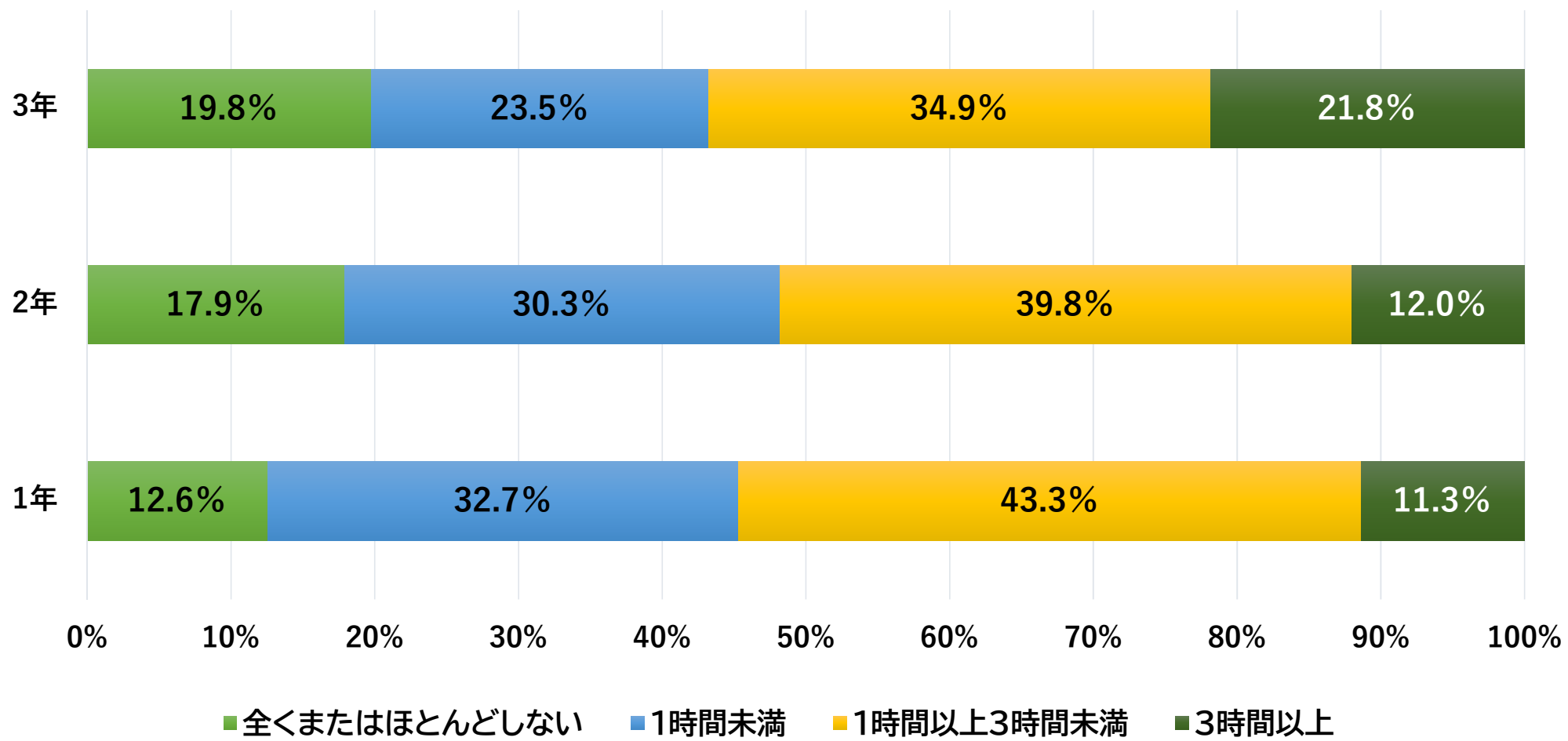
就職者の状況



文部科学省「学校基本調査」を基に岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

③-3 授業時間以外の学習時間(令和7年度)

※県立全日制の生徒、平日1日当たり



③-4 産業界が期待する資質・能力・知識

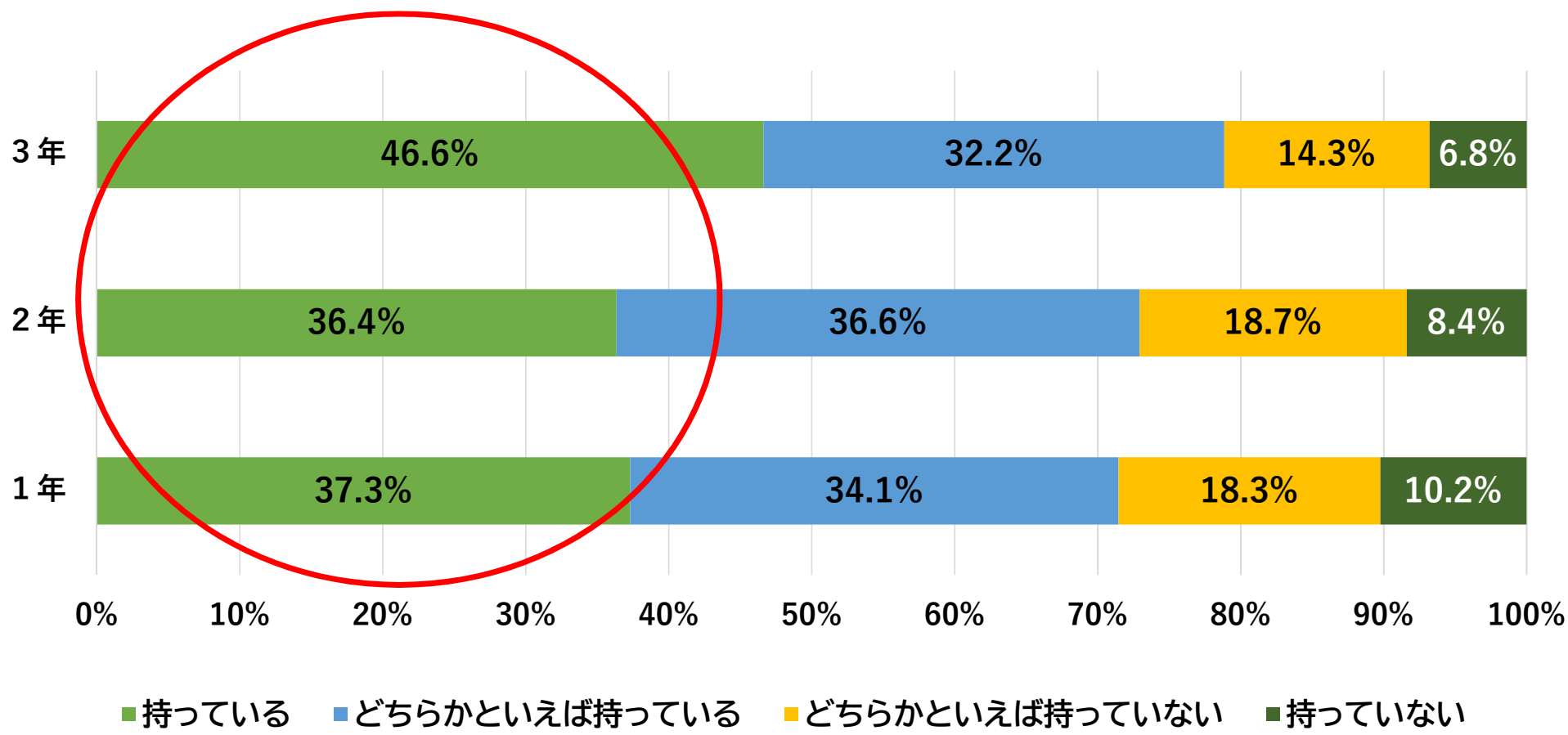
- 2022年に産業界がまとめた大学卒業生に期待する「資質」、「能力」、「知識」は、
「資質」… 主体性、チームワーク・リーダーシップ・協調性 等
「能力」… 課題設定・解決能力、論理的思考力 等
「知識」… 文系・理系の枠を超えた知識・教養、専攻分野における基礎知識 等
となっている。

産業界が学生に求めるもの（上位5項目）

	「資質」	「能力」	「知識」
1位	主体性	課題設定・ 解決能力	文系・理系の枠を超えた 知識・教養
2位	チームワーク・ リーダーシップ・協調性	論理的思考力	専攻分野における 基礎知識
3位	実行力	創造力	専攻分野における 専門知識
4位	学び続ける力	傾聴力	数理・データサイエンス・ I T・A I に関する専門知識
5位	柔軟性	発信力	専門資格

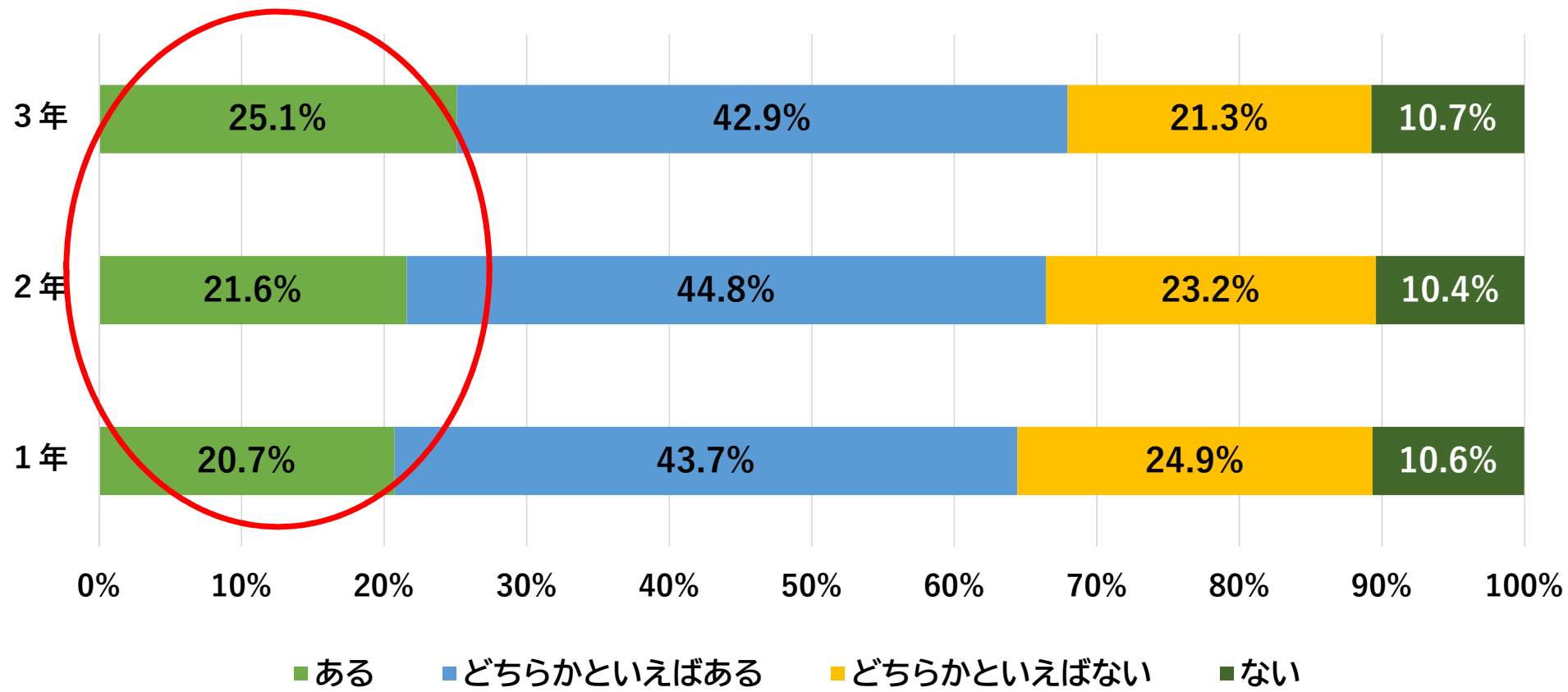
③-5 本県県立高校生アンケート「令和7年度 高校生活に関する意識調査」

問：将来の具体的な夢や目標を持っていますか。



③-6 本県県立高校生アンケート「令和7年度 高校生活に関する意識調査」

問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことがありますか。



③-7 夢育の推進



夢とは
今はできないけれど実現したいこと

夢育とは
夢を育み、その実現に挑戦することで、「自分を高める力」などの**非認知能力**を養う教育

③-8 PBL(課題解決型学習)の推進

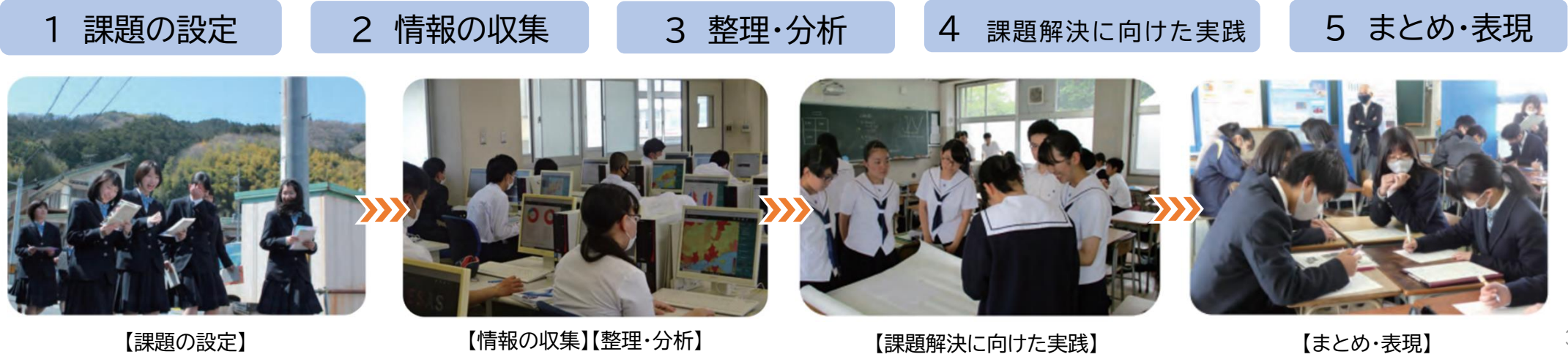
県立高校では、学習指導要領に掲げる「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科・科目や総合的な探究の時間等における探究的な学びが行われています。

県教委では、令和4年3月に「PBL ガイドブック(高校版)」を発行し、総合的な探究の時間におけるPBLの進め方と各学校の実践事例を紹介しています。

【PBLとは】 Project Based Learningの略で、子どもたちが、自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことであり、「課題解決型学習」ともいわれます。

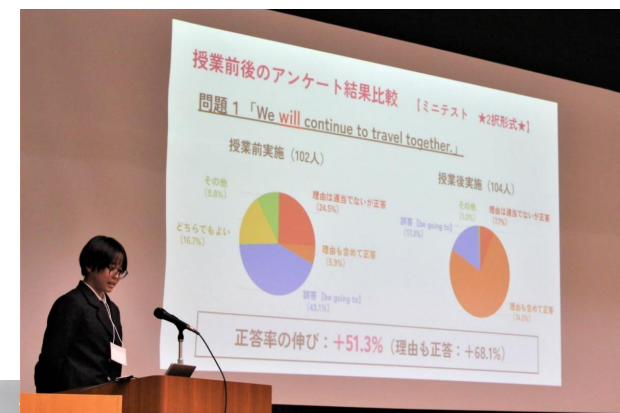


探究のプロセスをもとにした総合的な探究の時間におけるPBLの進め方



③-9 高校生「夢育」PBLフォーラム

このフォーラムでは、高校生の探究活動の成果を発表するとともに、他校との交流を通じて、探究的な学びの手法と好事例を共有し、高校生一人一人の探究的な学びの充実と各学校の探究活動の更なる推進を図っています。



【高校生「夢育」PBLフォーラム当日の様子】

③-10 次世代おかやま「夢育」ネットワーク事業

この事業では、高校生が自らの「夢」を育み、その実現に向けて主体的に考え、他者と協働して探究し、行動することができる資質・能力を育成するため、大学や国際機関、企業等と連携し、学校や国の枠を越えて学びを広げる場(機会)の構築を進めています。



【Well-beingサミット】

「“Well-being”な社会の実現」に向けて、基調講演をもとに、自分たちがどうあるべきか、何ができるかを考え、行動につなげていくために議論し、その成果を提言の形にまとめ世界に発信していきます。

【One Young World(OYW)への県立高校生派遣】

世界の次世代リーダーが一堂に会する国際サミットに県立高校生の代表1名を派遣。派遣生徒は、帰国後、アンバサダーとしてネットワークの様々な取組において、次の世代に向けて成果還元を行っています。

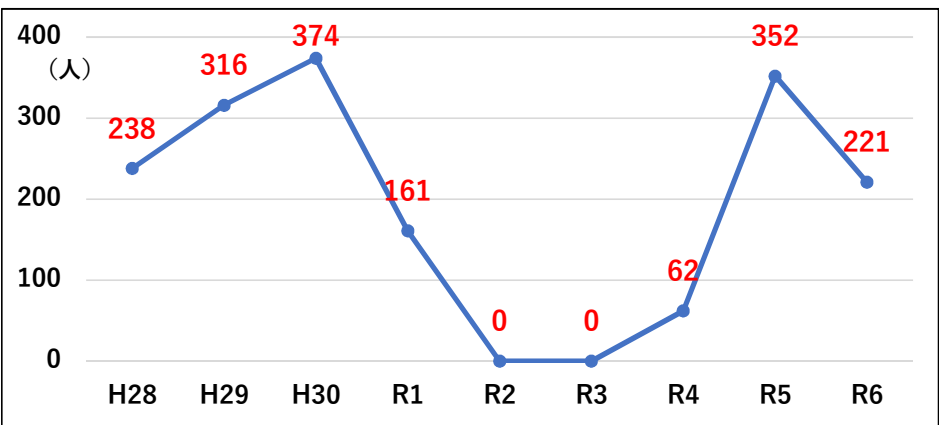


【生徒「夢育」推進委員会(PSC)】

「Well-beingサミット」と「高校生『夢育』PBLフォーラム」について、具体的な企画や運営、議論のファシリテート(進行)役を、有志の高校生による委員会が主体的に進めます。

③-11 グローバル人材の育成、国際交流の促進

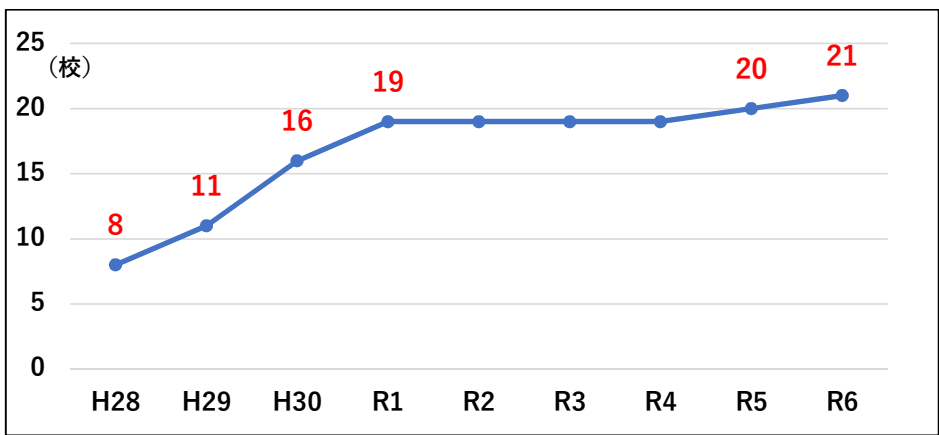
県立高校生の海外留学者数(短期)の推移



【倉敷南高校における姉妹校交流の様子】



海外の学校と姉妹校提携を締結している県立高等学校数の推移



③-12 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

文部科学省では、平成14年度より、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として指定しています。

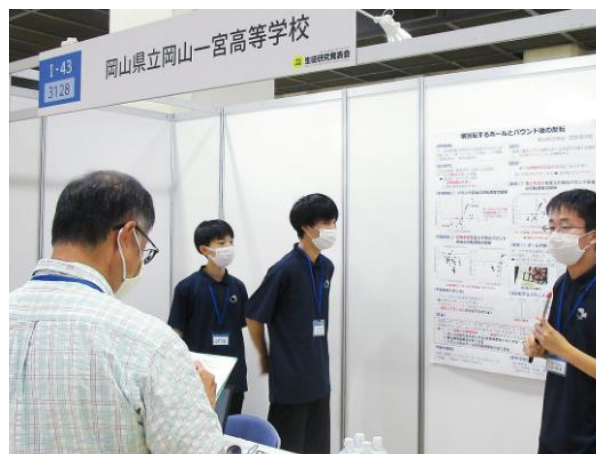
本県県立高校では、岡山一宮高校、倉敷天城高校、玉島高校、津山高校の4校が指定を受けています。

岡山一宮高校の取組

岡山一宮高校のSSHでは、生徒が自ら課題を見つけ、深く考え、主体的に学ぶ力を育成することを重視し、大学・研究機関・地域と連携した取組を通じて、将来の社会を担う人材を育てています。



【SSH卓越探究プロジェクト「課題研究において大学の先生から指導を受ける様子」】



【課題研究「SSH全国生徒研究発表会の様子(理数科課題研究)」】



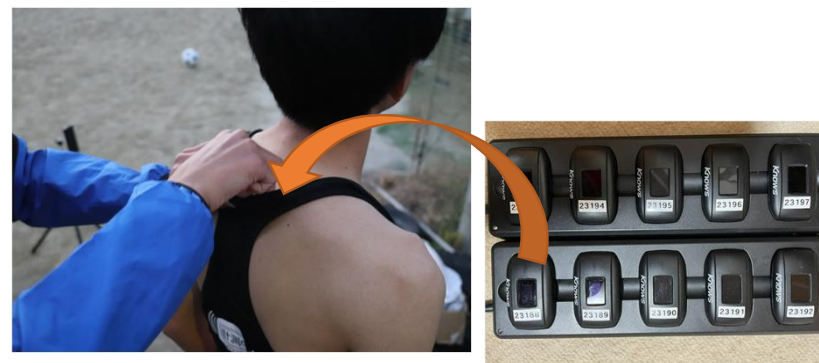
【SSHエンハンスプロジェクト「サイエンス部による小学生対象科学実験教室の様子」】

③-13 DXハイスクール

文部科学省では、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、必要な環境整備の経費を支援する「高等学校DX加速化推進事業」を実施しています。全国における採択校1,191校(令和7年度)のうち、本県県立高校(中等教育学校を含む。)では20校が採択されています。

倉敷青陵高校の取組

倉敷青陵高校では、総合的な探究の時間『青陵探究』で、大学や企業等と連携し、AI画像認識、生成AI、メタバースなどをテーマとした学習を行っています。高性能PCなどを整備し、文系理系を問わず数理・データサイエンス・AIを積極的に活用した取組を進めています。



【高性能 PC(動画・画像編集)】



【大型ディスプレイ】



【ウェアラブル端末をセンサーに埋め込み、運動を数値化する】

③-14 専門高校と産業界等との連携・協働の強化

県立高校では、産業界等と連携した専門的かつ協働的な学びや生徒が企業をよりよく知る機会の充実を図るなど、地域の発展を担う人材の育成に取り組んでいます。

なお、県教委では、令和4年8月、県内の経済6団体と包括連携協定を締結しています。

興陽高校の取組

興陽高校では、産業界と学校が連携したリアルな学びに取り組んでおり、高度な専門的知識や技術の習得、探究的な学びなどにより地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。



【(一社)日本造園組合連合会の技術者による竹垣や植栽などの作庭指導】



【ヤンマーアグリジャパン(株)が開発した直進アシスト付可変施肥田植機の運転体験】

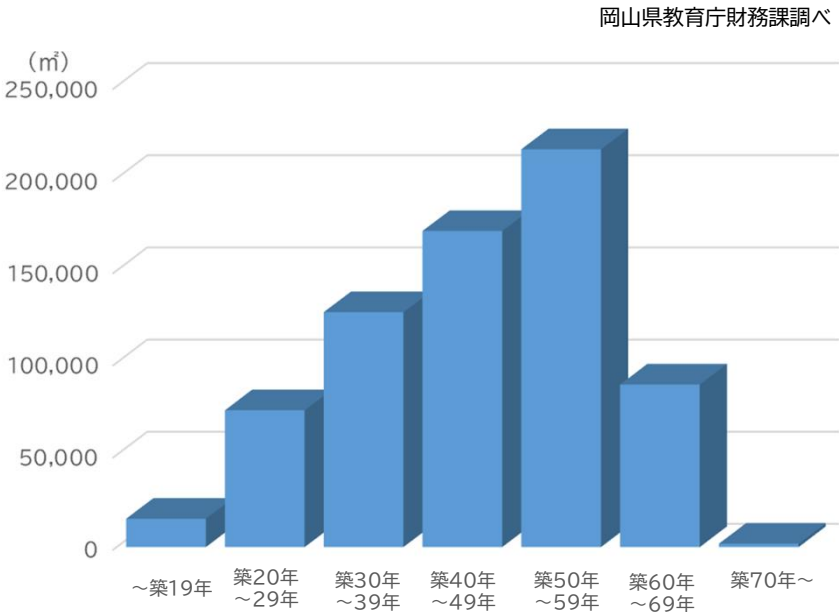


【「岡山桃太郎空港 綿花プロジェクト」こだわりのオーガニックコットンを使ったクッションの開発と販売】

③-15 施設・設備の状況

県立高校の施設は、第2次ベビーブームに合わせて建築されたものが多く、建築後40年以上経過した建物の面積が全体の約7割となっています。設備面では、デジタル設備等の導入が進み、特に、専門高校では、地域の産業を支える職業人育成を進めるために、デジタル化対応装置の環境を整備することにより、最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現しています。

校舎・体育館等の築年数別面積(R7年度時点)



【農場Wi-Fiとタブレットを活用した稲の生育調査】



【5軸マシニングセンタを活用した金属加工実習】

(研究協議)「魅力ある高等学校づくりの方策について」

次の観点を踏まえて、3～4分でご意見をご発表ください。

○社会情勢の変化や多様化する生徒のニーズに
対応した教育内容

○地域と連携した学校づくり